

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>(1) 知育・徳育・体育の調和のとれた生徒を育成する。                  (2) 基礎的、基本的な知識と技能を身につけ、向上心があり、知性を備えた生徒を育成する。                  (3) 個性豊かで、自己を律するとともに、自他をかけがえのない存在として認識し、協調性のある生徒を育成する。                  (4) 心身ともに健康な体の基礎をつくり、生涯健康で健やかな生活を送れる生徒を育成する。</p>		
<p>2 スクール・ポリシー</p>	<p>『育てたい生徒像』                  グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <p>①基礎的、基本的な知識と技能を身に付け、向上心や挑戦心をもつ、知性と創造性を備えた生徒                  ②豊かな個性をもち、自己を律することができるとともに、自らや他者をかけがえのない存在として認識し、協調性や協同性とたくましさを備えた生徒                  ③自己の在り方生き方を考え、地域社会や国際社会の一員として活躍することができる見識と行動力を備えた生徒</p>	<p>『生徒をどう育てるか』                  カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <p>①学力の向上を図るため、習熟度別や少人数による指導、ICT等を活用した指導など個々に応じた「わかる」授業の実施                  ②多様な進路志望に応じた、進路希望別クラス編成（特進クラスなど）、国際交流推進、部活動活性化（エキスパートクラブ）、高大連携等を包括したカリキュラムの編成と実施                  ③多様な価値観、課題解決、コミュニケーションを重視した総合的な探究の時間や生徒会行事、地域の人材資源を有効に活用した地域活動の実施</p>	<p>『どんな生徒を待っているか』                  アドミッション・ポリシー (AP)</p> <p>①主体的な探究心と実践への意欲をもち、高い志を掲げて積極的に学習活動に取り組む生徒                  ②真摯な態度で己を律することができ、思いやりの精神と仲間とともに切磋琢磨できる気概をもった生徒                  ③地域に愛着をもち、他者と協調し、協働しながら、社会に貢献しようとする意欲のある生徒</p>

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇教育課程・学習指導・（情報管理）</p>
<p>4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>・生徒対象の学習指導に関するアンケートの「授業中の指示・発問・説明などが明確でわかりやすい」(77.3%)や「授業の進む早さはちょうどよい」(71.6%)の項目に関して、非常に思う・思うと回答している生徒が他項目よりも多い。保護者を対象としたアンケートにおいても、学力が向上していると回答した割合は微増であった。                  ・ICTを活用した授業展開を行い授業の改善を行っている教科は増加しているが、「取り組みやすいと思う」と回答している生徒は全体の66.6%であり、ICTを活用した授業について改善の余地がある。                  (情報管理)                  ・業務上、個人情報扱う場面が多く、ミスや情報漏洩が起きないように、複数の教員で確認し、細心の注意を払う必要がある。</p>
<p>5 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>◇学力の向上：基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。                  ◇情報管理：校務の情報化を推進するとともに、データや個人情報の取り扱いの際のチェックを行い、事故防止に努める。</p>
<p>6 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<p>・新入生の初期指導、習熟度別の授業展開、ICT機器等を活用し理解に努めるなどを行い、個々の実態に応じた授業展開の推進を行う。                  (情報管理)                  ・県の成績処理システムの有効利用と複数教員でのチェック                  ・セキュリティーチェックシートを活用し、情報セキュリティ意識を向上。</p>

<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 授業改善、教科指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別授業を実施</li> <li>・生徒による授業評価の実施と分析により授業計画の変更と見直し、実践を行う。</li> <li>・教員の指導力向上やICTを活用した授業の研究のため、授業研究・校内研修を組織的・計画的に実施する。</li> </ul> <p>(2) 学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業展開の充実、家庭学習の定着を図る学習指導体制の推進</li> <li>・朝読書、学習の実践</li> </ul> <p>(情報管理)</p> <p>(3) 情報管理に関する事故防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティ意識を向上させ、事故防止に努めるとともに、発生した際に適切な対応をとることができる。</li> </ul>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 授業改善、教科指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による授業評価の実施・分析により、授業改善に役立てることができたか。</li> <li>・授業研究・校内研修を組織的・計画的に実施し、授業の改善に生かすことができたか。</li> </ul> <p>(2) 学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌、教科、学年と連携し、組織的に学力向上を図ることができたか。</li> <li>・ICT等を活用するなど、学習活動を充実する実践を行うことができたか。</li> </ul> <p>(情報管理)</p> <p>(3) 情報管理に関する事故防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績管理システムの運営を複数で行い、ミスがないようにする。</li> <li>・生徒の個人情報に関する情報については、複数の教員で確認し、確実に処理を行う。</li> </ul>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <p>①授業改善、教科指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開と研究授業の推進</li> <li>・学校生活に関するアンケートの実施・分析。</li> </ul> <p>②学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用など、学習指導を充実する取り組みを行った。</li> </ul> <p>(情報管理)</p> <p>③情報管理に関する事故防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セキュリティチェックを利用し、教員の情報セキュリティに関する意識を高め、業務に反映させる実践。</li> </ul>	<p>10 評価視点</p> <p>①授業改善に向けた実践を行うことができたか。生徒による授業評価、授業研究・校内研修が授業改善に活用できたか。</p> <p>②ICT活用について、教員がそれぞれ実践した教材等について生徒に還元できる。</p> <p>③職員の情報セキュリティに関する意識を向上させ、複数でチェックを行い、ミスが発生しない。</p>	<p>11 評価</p> <p>A <b>B</b> C D</p> <p>A <b>B</b> C D</p> <p>A <b>B</b> C D</p>
<p>12 成果課題</p>	<p>○習熟度別授業により、生徒の実態に合った授業内容を行うことができ、学力の定着に繋がられるように努めた。</p> <p>○生徒による授業評価を行い、授業改善のために役立てられるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・▲文理選択やコース登録について、早期から細かく情報を与え、ミスマッチが起らない工夫が必要である。</li> <li>・▲学び直しなど個々に応じた対応を充実させるため、スタディーサプリの活用を試みた。活用法などの広報を行い、生徒が取り組みやすいように工夫を行ったが、活用状況が悪く、効果的に活用するまでには至らなかった。</li> <li>・▲家庭学習の習慣付けまでにはいたらず、初期指導の工夫などの課題がある。</li> </ul> <p>総合評価</p> <p>A <b>B</b> C D</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) 基礎学力の定着や家庭学習の習慣付け等を行うため、授業の改善や初期指導について工夫を行う。</p> <p>(2) 生徒による授業評価の実施・分析を行い、授業計画の見直し、授業改善を図る。また、生徒が振り返る時間を設定し、基礎学力の定着の足がかりを作る。</p> <p>(3) ICTを活用するなどの工夫を行い、生徒が自ら学ぶ授業形態や授業内容を構築する。</p> <p>(4) 生徒の実態に合わせた教育課程の再編成を行い、主体的に学ぶことができる学習環境を構築する。</p>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月20日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による授業評価を授業改善に取り込むなど、生徒の実態に合った授業に努力して取り組んでいる。「わかる」授業は、生徒の状況により毎年変わっていくため、その状況に合わせ授業を改善していくことは大変だが、引き続き生徒の学力向上に努めてほしい。</li> <li>・生徒による授業評価は、指導者の授業改善に生かす部分と生徒自身が振り返り、次への目標をもたせることの二面性があり、非常によい取組である。授業評価の結果を生徒側、教員側のそれぞれがどのように生かしていくのか、来年度へ向けた改善方策案として位置づけてあり、方向性がよくわかる。</li> <li>・「①授業改善に向けられた実践を行うことができた」が、Bとなっているが、生徒対象のアンケートで「授業中の指示・発問・説明など明確で分かり易い」が77.3%、「授業の進む早さはちょうど良い」が71.6%となっていることから、A評価でもよいのではないかと。</li> </ul>
--

- 「基礎的・基本的な知識」を身につけるために、学校が真摯に取り組んできているのがわかる。ICT機器の活用は、今後「基礎的・基本的な技能」となるので、スタディサプリ以外のアプリ（例えば、ロイロノート）の利用も視野に入れ、検討されてはどうか。
- 語学留学も開催して欲しい。
- 「情報」科目に関し、プログラミングなどを生徒同士で教え合うことで、クラス全体の理解が進むとともに、教える生徒もコミュニケーション能力が向上したり、自己有用感が向上したりするなどの良い変化が見られることが期待できる。
- 働き方改革の一環として、教材などの準備を他の先生と協力して行う。一人で悩まず周りとは協力して生徒のために自らの学びを深めてより良い教育につなげていくとよい。

3 評価する領域・分野	生徒指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒は、学習や部活動、生徒会行事等に熱心に取り組み、ルールを遵守し、校内外での挨拶を含め、規律ある生活ができています。</li> <li>・身だしなみに関して、やや乱れが見られる。(全職員での指導が必要)</li> <li>・いじめや差別に対する指導、薬物乱用や情報モラルに関する指導、公共心を育てる指導に関しては一層の努力が期待される。</li> </ul>	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 集団生活における基本的な生活習慣を身につけさせる。</li> <li>(2) 自他の生命・人格を尊重し、危険を未然に防ぐ能力を育てる。</li> <li>(3) 規範意識を育み、ルールやマナーを守る生徒を育成する。</li> <li>(4) 全職員の共通理解のもと生徒指導體制の組織を強化する。</li> </ul>	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	職員、保護者、関係諸機関の連携を積極的に行い、生徒指導體制を強化する。また、学年会と連携して個々の生徒の生活指導にあたる。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 身だしなみ指導や遅刻防止指導、届出の徹底などを通して、規律ある生活態度を定着させる。</li> <li>(2) 交通安全指導を通して、安全で安心できる生活のための啓発活動を行う。</li> <li>(3) 諸問題に対して危機意識を持たせ、問題行動や被害などの未然防止に努める。社会生活を営む上で、ルールやマナーの遵守を呼びかける。</li> <li>(4) 全職員による共通理解及び共通行動のもとで生徒指導が行えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 遅刻者の状況や身だしなみ指導の結果から、望ましい生活習慣の達成度を確認する。学年会と連携して、日常的に生徒指導ができているかを確認する。</li> <li>(2) 交通安全指導での様子や登下校時の交通事故や校内での生徒の様子から、生活状況を観察する。</li> <li>(3) 落とし物や紛失物の様子から、貴重品管理や記名などの達成度を確認する。学年会との連携を図る。</li> <li>(4) 情報交換会や学年会との連絡を密にし、ルールや申し合わせなどの周知徹底状況を確認する。</li> </ul>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ①生徒個々の遅刻回数の記録と個別指導。</li> <li>②定期的に一斉身だしなみ指導を実施。</li> <li>③身だしなみ確認カードで日常的に指導。</li> <li>(2) ①登下校指導、自転車点検、交通安全講話、薬物乱用防止講座などを実施する。</li> <li>②掲示用プリントや全校集会で不審者や迷惑行為、盗難などの情報を伝える。</li> <li>(3) クラス掲示用プリントなどを配付し、全校集会や学年集会でルール・マナー遵守を啓発する。</li> <li>(4) 職員会議や研修などで、ルールを周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 遅刻の減少や身だしなみの改善などがみられたか。</li> <li>(2) 交通事故や迷惑行為が減少したか。適切な対応がされたか。</li> <li>(3) 安心して学ぶ環境作りに取り組むことができたか。</li> <li>(4) ルールやマナーの遵守について機会を捉えて指導できたか。</li> <li>(5) 全職員の共通理解のもとでの生徒指導はできたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> <li>A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> <li><input checked="" type="radio"/> A B C D</li> <li><input checked="" type="radio"/> A B C D</li> <li>A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> </ul>
12 成果・課題	総合評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○遅刻指導によって常習的な遅刻者及び全体数は減少した。(11月以降に増加)</li> <li>○ブレザー、ネクタイ、リボンの着用状況はよくなった。(11～4月は着用)</li> <li>○自転車の運転マナー(右側通行や並列進行など)は改善されつつある。</li> <li>○送迎車の校内乗り入れ禁止により、正門付近の交通状況が大きく改善し、安全性が向上した。送迎車の駐停車は激減し、学校付近の安全性が大きく向上した。</li> <li>○不審者等の情報がすぐに生徒に伝えることで注意を促すことができた。</li> <li>○コロナウイルス感染防止のため、MSリーダーズの活動は前期については自粛としたが、後期になり、地域清掃活動や通学安全指導などを行うことができた。</li> <li>▲遅刻の数が学年によって差が大きい。(特に冬季に増加傾向・1日平均20人以上)</li> <li>▲交通事故は自損事故を含めて1月までに13件。(昨年度28件、一昨年度22件)</li> <li>▲自転車の運転・通行マナーに関しては、学校付近では改善が見られるものの離れた場所での並進走行やイヤホンの使用なども見られる。</li> <li>▲身だしなみ(特に女子のスカート違反)がまだまだ改善されていない。(R4制服改定)</li> <li>▲個人情報やSNS上に掲載するケースがあり、ネットマナーに関する研修を進める。</li> <li>▲学年団・担任と生徒指導部の共通理解がまだまだ不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総 合 評 価</li> <li>A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> </ul>	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全校体制で予鈴前に教室に入る指導を行うことを提案する。(チャイムの鳴り始めで「遅刻」の徹底)</li> <li>(2) 身だしなみや挨拶指導(生徒指導)は全員でやる。その場で直させる。指導基準の明確を図る。</li> <li>(3) 貴重品ボックスの適切な使用法について指導し、生徒の自己管理能力を向上させる。</li> <li>(4) 心を育てる教育のために月1回の講話(講師は企画委員等)の実施を提案する。</li> <li>(5) 問題行動が起きたときの対応について、誰もが初期指導できる体制を作る。(生徒指導力の向上)</li> <li>(6) 全職員の共通理解をはかるため、職員会議や研修でルールなどを周知する機会をつくる。</li> <li>(7) 保護者ともよく話をし、気になることがあれば、職員に相談や報告をして「チーム」で対応する。</li> <li>(8) 日々の言葉がけを意識する。(褒める、励ます、認める)(言ったり、言ってもらったりを増やす)</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月20日

### 【意見・要望・評価等】

- ・今年度の重点目標の達成に向け、教職員が一丸となって生徒が安心して学ぶ環境を作るなどの取り組みが見られる。
- ・自転車通学者が県下でも多い学校であるが、事故件数が減ってきていることは非常に良いことである。
- ・自転車の運転マナーが良いと、自転車事故を防ぐだけでなく地域の方に良い印象を与えることもできるので、継続的に指導を望む。
- ・岐阜県自転車条例に加え、改正道路交通法の施行により、令和5年4月1日から自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されるので、ヘルメット着用を促していく必要がある。
- ・制服が変更したことにより、ネクタイやリボンの着用状況が良くなった。外部から見ても、各務原高校の生徒はとても好感の持てる。また、学校訪問時には生徒からあいさつをするので、好感が持てる。
- ・近隣で働く者として、最近自転車のマナーが良くなったと感じる。一方、雨天時等の保護者による送迎の車の危ない場所（カーブや交差点付近）での乗降車は特に危険に感じることがある。

3 評価する領域・分野	◇進路指導	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の7割以上が進路情報の提供や、進路指導のあり方について肯定的な評価をしている。オンラインと対面を内容に応じて使い分けることで、生徒のニーズにより細かく対応できたのではないかと考える。</li> <li>・保護者の方からも、必要とする情報提供に関してや、生徒の進路希望に沿った適切な指導に関して、7割以上の方から肯定的な評価を頂いており、一定の理解を得ていると考えられる。</li> <li>・本校で最も特徴ある教育活動という質問に対して、進路学習と答えた割合が、生徒に比べ保護者の方が少なかった。今後は、保護者の方へもより分かりやすく丁寧に伝えていく必要があると考える。</li> </ul>	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の発達段階に応じた情報提供やキャリア教育を推進し、高校卒業後も見通した「生きる力」を身に付けるための指導を充実する。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部を中心とし、進路指導部内の各学年担当がイニシアチブをとり、各学年団と連携する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 多様化する入試制度に対応しうる学力の強化</p> <p>(2) 生徒一人一人の進路の実現に向けたガイダンス・講演会</p>	<p>(1) 生徒のニーズに応える授業、+αの取り組みとしての補習授業、全国における学力を測るための外部模擬試験が実施され、受験に対応できる学力が育成されているか。</p> <p>(2) 「総合的な探究の時間」やLHRを利用し、進路目標実現に向けて進路意識が高まり、進路決定に寄与するものとなっているか。</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年：職業観・勤労観の育成 進路講演会、キャリアガイダンス、インターンシップ、大学模擬講義、進路ノート、放課後補習、スタディサポート、小論文指導</li> <li>・2年：進路目標の設定 進路講演会、インターンシップ、大学模擬講義、小論文指導、放課後補習、スタディサポート</li> <li>・3年：進路目標の実現 受験ガイダンス、進路講演会、小論文指導、面接指導、共通テスト受験生向け特別補習、放課後補習、スタディサポート</li> </ul>	<p>① 各種進路ガイダンスが、進路意識の高揚を図り、3年間を見通した段階的な支援となっているか。</p> <p>② 生徒が意欲的に進路関係の行事に取り組み、自己実現を目指して、入試等で努力できる支援となっているか。</p> <p>③ 受験・就職に対応できる学力・能力が身に付いているか。</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
12 成果・課題	<p>○共通テスト志願者数は63%であった。多様な進路に対応し、最後まで学力を付ける努力をさせる指導を行った。</p> <p>○進路講演会・キャリアガイダンス・模擬講義等をオンラインも活用しながら実施し、生徒の進路選択に役立てた。</p> <p>○模試を受験するにあたり、オンライン課題配信を行って家庭学習を行わせると同時に、各教科で過去問を扱い対策をとるなど、学力をつけさせる指導を行うことが出来た。</p> <p>○総合型選抜や学校推薦型選抜に対応するため、全職員体制で面接指導や小論文指導を実施することが出来た。</p> <p>▲模擬試験受験後に、生徒の学力層に応じた働きかけをし、個別に対応した指導が必要である。</p> <p>▲1, 2年生のうちに、総合型選抜や学校推薦型選抜についての理解を深めさせ、小論文や面接が必要になる生徒に対し、より早期から対策を行っていく必要がある。</p>	
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型選抜や学校推薦型選抜に重きが置かれつつある昨今の傾向を踏まえ、学力の向上を図るとともに、小論文指導や面接指導等も系統立てて実施する。</li> <li>・進路実現のための教職員間の協力体制をより強固なものとし、生徒や保護者が相談できる環境をさらに整える。</li> <li>・進学先で躓かぬよう、授業第一に最後まで学ぶ姿勢を貫かせる。</li> <li>・外部の教育力を精選して活用し、インターンシップ等、キャリア教育を充実させる。</li> <li>・複雑化する入試制度に対応できるよう、生徒や保護者に向けても最新の情報を常時提供し、三位一体</li> </ul>	

となって進路実現を目指す。

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月20日

### 【意見・要望・評価等】

- ・社会にはどのような職業があり、地域や人々に貢献できているかということを知っているのは、自分の夢や進路を定めるために大切なことである。来年度の改善方策で、インターンシップやキャリア教育を充実させるという項目があるが、職業などについて生徒に実体験として記憶に残る機会をたくさん与えられることを期待する。
- ・一層複雑化したり、年によって変遷したりする入試制度に丁寧に対応できている。単なる進学指導にとどまらず、キャリア教育としてどのような地域社会人になっていくのか、目的意識を抱かせ、生徒自身が考え模索できる機会が増えるとよい。
- ・総合型選抜や学校推薦型選抜などの選択肢が増えているため、生徒にとってプラスになるよう小論文や面接指導にももっと力を入れるとよい。進路指導の評価は、学校全体でBよりもAを目指し、教員も「よい指導ができている」と自信を持って言えるようになるとよい。
- ・1年から3年までの3年間を俯瞰的した継続的な進路指導のカリキュラムがあるのは非常に良い。小論文指導や面接指導も、今後一層必要だが、まずは基礎学力の定着、そして新聞やインターネットを通し社会の動きに目向ける気持ちの醸成も肝心である。

3	評価する領域・分野	◇特別活動部 学校行事の企画・運営、部活動の振興、ボランティア活動	
4	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・文化祭、球技大会をコロナ禍であるが満足度の高いものとしたい。 ・学習と部活動を両立させ、充実した高校生活を送りたい	
5	今年度の具体的かつ明確な重点目標	1、生徒主導の学校行事企画・運営 2、部活動の精選	
6	重点目標を達成するための校内における組織体制	・特別活動部と各委員会顧問、生徒会、部顧問、全校体制で各行事を運営する	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 生徒会主体の学校行事の充実 (2) ネットワークの構築	(1) 生徒・教員アンケートを実施 (2) 8割以上が概ね満足となる行事	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
	・学校見学会で、生徒会主体による学校説明会  ・優秀な実績な部活動のPR  ・部活動の精選	①学校見学会参加の中学生・保護者のアンケート結果  ②部活動所属割合を上げる  ③部活動の数を減らす	A <input checked="" type="radio"/> B C D  A B <input checked="" type="radio"/> C D  <input checked="" type="radio"/> A B C D
12	成果 課題	<p>○文化祭を昨年度の反省を活かしコロナ禍で実施できた。</p> <p>○球技大会を昨年度の反省を活かし、部活動の協力を得ることができた。</p> <p>○サッカー部が3年ぶりに選手権大会で決勝に進出し、多くの生徒・職員に応援をしていただき、帰属意識を高めることができた。</p> <p>○部活動の統合・廃部をすることができた</p> <p>○ボランティア活動も少しずつできた。(校内での募金活動)</p> <p>▲女子の部活動加入率が低い</p>	
13	来年度に向けての改善方策案	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D	
	・文化祭のクラスの展示や発表の質を高める ・女子の部活動加入率を上げる		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月20日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高校サッカー選手権岐阜県予選の決勝戦進出は、素晴らしかった。このような業績は、サッカー部員や部顧問の努力が学校全体に行き渡り、学校として一つになれる良い機会であったと感じた。</li> <li>・実績を上げている部活動がいくつかある。是非その活躍を本校の魅力の1つとしてアピールしていくとよい。また、コロナ禍において存分に行えなかった文化祭や体育祭等を復活させ、生徒に高校生活の楽しみを味わってもらえるとよい。</li> <li>・学校行事や部活と学習の両立は難しいとかもしれないが、生徒が充実した学校生活を送れるよう、生徒の自主性を引き出しながら取り組めると良い。</li> <li>・部活動の加入率は低いかもしれないが、例えばスポーツのクラブチームに加入したり、地域の吹奏楽団に入っていたりして、部活動以外で活躍できる場もたくさんあるので、加入率にこだわる必要はないと考える。</li> <li>・教職員の働き方改革もあり、部の統廃合も必要であるが、生徒たちの気持ちも踏まえたサポート体制 ・土日の部活動の地域移行を期待したい。(現実的には休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保が難しいが。)</li> </ul>
---



3 評価する領域・分野	保健厚生（保健管理・安全管理）	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「本稿では、地震や台風等の場合の対応について、生徒や保護者（地域）に対策マニュアルを示し、説明している。」75.5% 生徒に対しては、「命を守る訓練」等でマニュアルに沿って指導しているが、来年度から一部抜粋して学校 HP に掲載はして周知したい。</li> <li>「本校では、清掃が行き届いており校内がきれいである」63.9% 今年度「大掃除旬間」として、年3回時間を拡大して全員で行ったが、日常の掃除・整理整頓への意識の向上には繋がらなかった。</li> </ul>	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保健管理の充実と保健指導の推進</li> <li>(2) 環境整備の徹底とマナー指導の徹底</li> <li>(3) 安全な施設設備の維持管理と防災意識の向上</li> </ul>	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	保健厚生部の中で保健・環境・防災・厚生の4つの分野に担当を分担。県の指標に基づき新型コロナウイルス感染症防止対策を最優先に実施する。また、防災に関する事業の見直しを段階的に進めていく。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 協力を得て速やかな健康診断の実施と事後指導を実施する。</li> <li>(2) 感染症予防・感染拡大阻止に向けて全校体制で取り組み、周知徹底を図る。</li> <li>(3) 委員会を通して資源ゴミの分別を徹底し、環境美化への意識やマナーの向上を図る。</li> <li>(4) 生徒・職員による定期安全点検を実施する。</li> <li>(5) 年3回、時間拡大し全員掃除を実施する。</li> <li>(6) 防災計画に基づいて「命を守る訓練」や全校統一LHRを実施する。HR委員に防災係を委託し、生徒主体で訓練を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 検診結果を分析。受診率の向上を確認する。</li> <li>(2) うがい・手洗いなど自主的な感染症予防策を実施し、継続的な指導により定着させる。</li> <li>(3) 委員会活動による掃除のチェックとゴミ回収所の分別状況の把握を実施し徹底する。</li> <li>(4) 複数の目で安全を確認し、常に事故を予測する力をつける。</li> <li>(5) 生徒・職員の清掃の意識を高める。</li> <li>(6) 防災係にフィードバックシートを提出させて、訓練の質的向上や全校生徒の防災意識向上への方策を考えさせる。</li> </ul>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 各種健康診断や環境衛生の検査を実施。</li> <li>(2) 欠席状況調査で、生徒の健康状態や感染症防止対策を時宜に応じて実施した。玄関に自動検温器。各教室に手指消毒機器、消毒道具、サーキュレーター、CO2測定器を教室に常置した。生徒会保健委員会で換気を呼びかけた。また、教室の日常点検や保健衛生活動を実施した。</li> <li>(3) 厚生委員会でゴミ分別を呼びかけ、回収場所では当番を付けて指導・監視をした。また、掃除担当には日常の清掃から教室内や共用部分の消毒を継続して実施してもらった。</li> <li>(4) 専門家の指導助言を得て、教室内の安全点検を防災係主導のLHRとする計画を立案した。</li> <li>(5) 年3回の大掃除旬間を実施した。</li> <li>(6) 命を守る訓練年3回、防災関係の全校統一LHRを1回設定。防災係に対して事前に研修会を持ち、生徒主体の実践を立案した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 事後指導等を徹底できたか。</li> <li>(2) 感染症拡大防止に全校体制で取り組めたか。 生徒の健康チェック・手指消毒・黙食・換気の習慣化が高まったか。</li> <li>(3) 委員会活動を通じて、生徒の環境美化の意識が高まったか。</li> <li>(4) 施設設備の安全な維持管理に組織的に取り組み、未然に事故を防ぐ力と安全意識を高めたか。</li> <li>(5) 清掃・整頓に対する意識が向上したか。</li> <li>(6) 指導により、防災係として緊急時の対応力と意識が向上したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) <input checked="" type="radio"/> A B C D</li> <li>(2) <input checked="" type="radio"/> A B C D</li> <li>(3) A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> <li>(4) A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> <li>(5) A <input checked="" type="radio"/> B C D</li> <li>(6) <input checked="" type="radio"/> A B C D</li> </ul>

12 成 果 ・ 課 題	<p>○各種の健康診断や衛生検査は、職員の協力でスムーズに実施できた。事後指導及び措置もHR担任の協力を得て、措置完了者も順調に増えてきている。</p> <p>○保健委員会・厚生委員会の生徒は、保健管理や環境衛生に対する意識の高い生徒が多く積極的に活動することができた。更に委員会活動が活発化するように、指導していきたい。生徒自身の活動を活かしていくような計画を立案したい。</p> <p>○環境美化においては、職員室や準備室の清掃、職員トイレは教職員にお願いし、複数の掃除場所の監督にならないよう配置した。新たに実施した大掃除旬間は日常との区別化を図るよう、職員に働きかけた。重点箇所を提示し、全校態勢で臨むことが出来た。それでも職員の意識の差違が、そのまま生徒へ反映されるという本校の現状を変えて行くにはさらなる工夫と努力が必要である。</p> <p>○経済活動の再開が始まり、コロナ感染防止対策が規制緩和への動きが出てきたようだが、おざなりにならないよう、毎朝の健康チェック、手指消毒の呼びかけを管理職・副担任と実施してきた。担任には教室での健康チェックカードの確認や啓発など毎日実施していただいている。保健厚生部として防止対策として必要な消毒液などの消耗品をいち早く取りそろえ、その使用を全職員・生徒に周知徹底してきた。特に、昼食時の黙食習慣化は昨年度のようにパーティションを個人用に購入しなかったが、担当からの呼びかけや巡回指導を学年団には継続して実施していただいた。本校が各務原市内の他校と比べて感染者が少ないのも、学校のこうした取り組みと生徒がそれを理解し実行していることの結果であると考えている。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策</p> <p>県の方針に基づいてにコロナ感染症対策実施していくが、人と接するときのマナー・エチケットという観点から、消毒・マスク・換気等がおざなりにならないよう取り組んでいきたい。</p> <p>また、大地震の発生が叫ばれ異常気象による災害が多発している昨今、生徒の安全を守り、自らの命を守り、他者の命を守れる行動がとれる青年を育成していくために、生徒会主体の啓蒙活動や防災係のリーダー性を高めるため、自身の体験・取り組みを増やしていけるよう計画・立案していきたい。</p> <p>これらの取り組みを学校HPに掲載し、保護者や地域に向けて発信していきたい。</p>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月20日

- ・コロナ感染者が比較的少ないというのは取り組みの成果である。
- ・命を守る訓練や防災係を中心とした生徒の意識を高める取り組みが、防災意識の向上に役に立っていると推測される。来年度には、改善方策のように生徒会主体で実体験ができる機会を増すとさらに効果が高まるであろう。
- ・5月に新型コロナウイルス感染症の分類が緩和されると、一時的に爆発的に感染者が増加するかもしれないので、引き続きの対策が必要である。
- ・保護者・生徒対象アンケートの結果にもあるように、いつ来校しても掃除が行き届いている。
- ・地震・災害の対応について地域の防災マップを活用を推奨する。また災害図上訓練(DIG)などを用いた演習も行えるとよい。

3 評価する領域・分野	図書情報◇読書指導・視聴覚機器整備・情報教育・芸術鑑賞	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・読書に興味をもつ生徒が比較的多く自身で図書を購入しているが、それに比べて図書館利用者は少ない。</p> <p>・ほとんどの生徒がスマートフォンを持ち、SNS、LINE、メールなどで図書館を利用する時間が多い。</p>	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>1 (1) 読書指導を推進し、図書館内の環境整備に努める。</p> <p>(2) 図書委員会が自主的に活動できるよう支援する。</p> <p>(3) 「情報発信」の場所としての図書館のあり方を考える。</p> <p>2 (1) 体育館や視聴覚教室での、LHR、総合的な学習の時間、各教科の授業を支援する。</p> <p>(2) 芸術鑑賞会が円滑に運営できるよう選定・企画・実施をする。</p> <p>3 (1) 情報リテラシー教育・著作権教育を計画的に行い、情報モラルを養い情報化社会への対応を促す。</p>	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>1 (1) 「図書館だより」を発行したり、掲示板を使って新刊を紹介したりして、読書に対する興味・関心を喚起する。また、各種行事の案内をするなど広報活動に努める。また、自主学習の場としての学習スペースを確保するなど、生徒が利用しやすい図書館を目指す。</p> <p>(2) 図書委員会の活動として、生徒が図書館だよりの発行や各種行事の企画・運営等に積極的に参加できるよう工夫する。また「放課後見聞録」等生徒が楽しめるような行事を工夫する。</p> <p>(3) 図書だけではなく、オーディオ・ヴィジュアル資料の整備も行う。また、校外の図書館などと連携をとることで、総合的な探究の時間における、生徒の多様な価値観、課題解決、コミュニケーションを重視した活動を支えるとともに、本校から地域への情報発信ができるようにする。</p> <p>(4) 授業やLHR、総合的な学習の時間の図書館利用を推進する。また調べ学習、探求学習に対応できるよう図書の充実に努める。</p> <p>2 視聴覚機器や視聴覚室の積極的な活用を促進するために、視聴覚機材や放送機材のメンテナンスに気を配り、整備を行う。また芸術鑑賞会として、生徒が鑑賞するのにふさわしい演目を選定し、円滑に運営できるように計画・実施する。</p> <p>3 情報化社会に対応できるような、情報リテラシー教育及び情報発信に関わる著作権教育について、各教科・分掌・学年と連携をとって計画的に実施する。</p>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>1 図書館を利用しやすいよう整備し、図書委員による貸出し、広報活動を行う。</p> <p>2 視聴覚・放送設備を整備し、授業などで使いやすいよう支援する。</p> <p>3 情報リテラシーや著作権の教育、またSNS上や、配信授業におけるルール遵守を呼びかける。</p>	<p>1 貸し出し統計や希望図書アンケートなどを分析し、貸し出しの増加と利用度を確認する。また生徒の意見も取り入れ書架や図書などの配置が学校の実情に合っているかどうかを確認する。</p> <p>2 視聴覚・放送設備についての意見を収集する。</p> <p>3 アンケートやLHRで情報リテラシーや著作権問題についての生徒の状況を確認する。</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<p>1 ① 図書委員会を中心とした広報活動。</p> <p>② 職員・生徒対象の希望図書の調査。</p> <p>2 視聴覚・放送機器の点検と整備</p> <p>3 情報リテラシー・著作権などの啓発活動。</p>	<p>1 昨年度より図書館利用が増加したか。本校の実情に応じた図書館のデザインができたか。</p> <p>2 視聴覚機器や放送機器が使いやすいものであるか。</p> <p>3 生徒・教員に情報モラルの遵守が啓発できたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 成果</p> <p>○ 読書週間などを利用して啓蒙活動を行ったが、貸し出し冊数は伸びなかった。希望図書アンケートや店頭選書などで生徒が希望する図書を整備できた。また、木質化工事のための移転・新しい配置は効果的にできた。</p> <p>○ 職員の意見を聞きながら、視聴覚・放送設備の整備は効果的にできた。</p> <p>○ 芸術鑑賞は3学年のみ行うことができた。</p> <p>○ 全学年で情報モラルLHRの計画を立てて、職員に対しても配信授業における著作権遵守についての啓蒙ができた。</p> <p>▲ 購入雑誌の変更・新規購入も含め生徒の意見を聞きながら、図書を整備していく。</p> <p>▲ 老朽化している視聴覚室について、全校規模で整備を考える。</p> <p>▲ 生徒への情報モラル教育をさらに充実していく必要がある。また他校の著作権侵害の事例をふまえて著作権教育を職員・生徒に徹底する必要がある。</p>		<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
13 来年度に向けての改善方策案		

- 1 さらに利用しやすい図書館を考えて、図書委員の自主的活動を進め、「生徒自身による生徒のための図書館」を目指す。
- 2 視聴覚室の設備について、改修計画も含めて全校規模で考えていく。
- 3 情報モラル教育の全校的な計画を考える。著作権教育の徹底をはかる。
- 4 感染症の状況をふまえ芸術鑑賞の新たな形を考える。

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月20日

### 【意見・要望・評価等

- ・生徒の活字離れ、読書離れを防ぐよう、工夫を凝らした事業を行なわれている。引き続き、生徒のための図書館を目指してほしい。
- ・スマートフォンが普及した現在の生活の中で、SNSなどで知らず知らずのうちに人を傷つけるなど人権侵害をしないよう、相手を思いやる気持ちを醸成し、情報モラルを徹底するなど、引き続き、情報モラル教育の実践を期待する。
- ・素晴らしい図書館ができたので、もっと活用してほしい。そして生徒には多くの本を読んでもらいたい。
- ・タブレットの導入やW i - F i 環境が進んだことで、視聴覚や放送機器の活用方法が変わっていくことを念頭に、利用の仕方や方法などを必要に応じて見直しができるとうい。
- ・読書の啓発や、芸術鑑賞、視聴覚設備の整備等様々な視点に立った取り組みがなされており、素晴らしいことである。

3 評価する領域・分野	<b>渉外部</b> ◇「組織運営」「保護者、地域連携」	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・事業は少しは行なうことができたが、保護者向け校外研修などアンケートをとるような事業は開催できなかった。	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇今後も、PTA事業や組織の精選や改善を考えていく。 ◇ネットを活用してのPTA、同窓会事業にさらに取り組んでいく。 ◇同窓会の組織やホームページの展開を見直していく。	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・PTA役員会、同窓会役員会の充実	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 文書、ホームページ、メールでの事業の通知 (2) PTAだより等での事業の報告	(1) 各事業への参加者の人数 (2) 参加者からのアンケート結果	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・少なく制限された状況で、文化祭企画や挨拶運動など、に取り組んだ。また、高P連地区の総会で、コロナ禍で工夫した活動を報告した。 ・特に同窓会事業がなかなか行えなかった。	①役員会等の開催と特に50周年に向けての取り組み ②PTA、同窓会事業	A ② C D A B ③ D
12 成果・課題	○PTAについては、HR委員を廃止するなど、組織や会議の縮小を図ることができた。事業についても精選を進めた。 ○役員会の方々が大変協力的で、事業の円滑な進行ができています。 ▲特に同窓会事業が開催できなかったこと	総合評価 A ② C D
13 来年度に向けての改善方策案 (少子化や学校規模縮小の流れの中で) ・今後も、PTAや同窓会の組織や事業の精選・改善を考えていく。 ・ネットを活用してのPTA、同窓会総会や事業などにさらに取り組んでいく。 ・同窓会の組織やホームページの展開を見直していく。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月20日

### 【意見・要望・評価等】

・PTAなどは社会情勢の変化に伴い、改善が求められる。学校主導では難しい案件かもしれないが、PTAと連携を取りながら改善・精選に取り組んでいけるとよい。

2 評価する領域・分野	◇ 教育相談			
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「悩みや相談事に親切に対応してくれる」では、生徒の70%強が肯定的で、15%がわからないと回答している。</li> <li>・「保護者の悩みや相談に適切に対応している」では、保護者の50%強が肯定的で、35%がわからないと回答している。</li> <li>・「個々の生徒の相談に丁寧に応じている」では、保護者の50%強が肯定的で、40%弱がわからないと回答している。</li> <li>・個人情報の問題があり、該当者以外は知る機会はないと考えられる。</li> </ul>			
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 問題を抱えた生徒に対する早期対応を目指し、生命を尊重し豊かな人間性と望ましい人間関係の確立を促すための、連携を密にした相談活動を展開する。 (2) 各種検査、「日常生活に関するアンケート」を実施し、自立や自己実現の援助ができる活用を促す。 (3) 特別な支援を必要とする生徒の教育的ニーズに応じて研修会を開き、組織的に対応する。			
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室、学年会と有機的な連携をとり、情報交換会において名前の挙がる生徒について、管理職、部長を交え組織的に方策を練り、担任を支援する体制。</li> </ul>			
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
(1) 学校生活への適応のため特に1年生に対しては、中学校との情報交換も交え観察しながら援助を進めていく。校内、家庭、外部機関との連携を密にする。 (2) 各種検査、アンケートを実施し、生徒の自己理解を促すと共に職員の生徒理解に役立てる。 (3) 特別支援教育の企画運営を行い、研修会を開催し、適切な支援のあり方を実践する。	(1) 常に最新の情報を共有し、連携を取り、生徒を援助しているか。 (2) 各種検査やアンケート結果をもとに、生徒理解がなされ喫緊の問題に対応できているか。 (3) 研修会が実りあるものとなり、特別支援が必要な生徒に、適切に支援できたか。			
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の初期指導としての構成的グループエンカウターの手法を用いたクラス開き</li> <li>・年9回のスクールカウンセラーの活用事業の計画と、援助を必要とする生徒及び保護者の支援</li> <li>・教育相談便り（相談室紹介、SC日程、教育実習生のお悩み克服談等）による情操の涵養</li> <li>・学年会、情報交換会等における問題を抱える生徒の情報収集と迅速な対応</li> <li>・「クレペリン検査」「i-check」「日常生活に関するアンケート」の実施による生徒理解や問題の把握</li> <li>・本校SCによる「自傷行為についての考え方」研修会</li> </ul>	(1) 問題を抱えた生徒に対して適切な支援ができたか。 (2) 担任や、学年会と連絡が密にできたか。 (3) 各種検査やアンケート分析結果が生徒理解に資するものとなったか。 (4) 特別支援教育が必要な生徒の情報収集及び支援ができたか。	A (B) C D (A) B C D A (B) C D A (B) C D		
11 成果・課題	○1年生の初期指導として、構成的グループエンカウターの手法を用いたクラス開きを行うことができた。 ○校内及び家庭との連携を図り、状況を分析しつつ機会や役割を考え組織的な援助を実践することができた。また、保護者からの相談に対して担任と共に面談をし、継続的な相談に応じた。 ○県からの指示による「心のアンケート」を12回実施し、それに加えて「日常生活に関するアンケート」を年5回実施し、コロナ禍における生徒の困り感を拾い、担任とともに生徒の問題を迅速に把握し対応できた。また、「クレペリン検査」においては、専門家によるデータ分析結果説明会を開催した。 ○生徒の抱える問題について随時ケース会議、教科担任会議で共通理解を図り支援に繋がった。 ○ほぼ毎日スクール相談員が常駐するようになったことで、生徒や保護者を受け入れる体制ができ、じっくりと話を聞き支援することができた。 ▲「教育相談便り」の発行回数が減少した。 ○SCによる職員研修会では、自傷行為についての考え方と、生徒に関わるときの考え方について研修した。		総合評価 A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談室登校、不登校問題に対処するため外部機関との連携を強め、ネットワーク作りも意図して進める。</li> <li>・個人差が多く多様な生徒のニーズに応えられるように、引き続き教員の資質向上及び共通理解を図る。</li> <li>・迅速な対応、専門機関への受診など、専門家のSCによるカウンセリング相談の日数が増えるとよい。</li> </ul>			

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月20日

<b>【意見・要望・評価等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な背景を持つ学生に対応されていることがわかる。いろいろとアンテナを立てて、早期対応とアフターケアの継続をお願いしたい。外部の専門家の活用も大切である。</li> <li>・スクール相談員を常駐しており、悩みを抱えた生徒が気軽にすぐに相談に行くことができ、大切な時期の生徒や保護者にしっかりと寄り添って支援につながることができている。総合評価はAでもよいのではないか。</li> <li>・コロナ禍の影響か、ICT機器の広がりか、個々の特性か、何を背景としているのかは定かではないが、目</li> </ul>
--

の前の中学生を見ていると、人との関わりに苦手意識を抱いている生徒、人との関わりをそもそも拒否する生徒などが確実に増えてきている実感が。高校でも同じような傾向があるのかもしれないが、ますます個々の生徒の豊かな成長を支えるために、状況を把握し、必要な支援等をタイムリーに行えるかが重要であると感じる。教職員の資質向上、外部機関との連携、校内でのネットワークなど、来年度へ向けた取組の充実に期待する。

- 心のアンケートや生活に関するアンケート等たくさんの情報収集をし、きちんと対応できている。こうしたデータは、今後の方針の参考となるよう、更に活用したり分析したりするとよい。